

地区ロータリー財団 セミナー報告

ロータリー財団委員会

委員長 福家 宏 (八尾中央RC)

日時：2011年8月27日(土) 13:30～16:30

場所：大阪YMCA会館 2Fホール

地区ロータリー財団セミナーはG主催の大切なプログラムで、各クラブの会長、幹事、財団委員長を対象としたロータリー財団についての勉強会です。猛暑の最中でしたが、岡部泰鑑GはもとよりRI理事近藤雅臣PG、災害支援プロジェクト委員長井上暎夫PG、地区ロータリー財団部門顧問横山守雄PG、日本ロータリー平和センター支援委員会常任委員大谷 透PG、高島凱夫GE、地区研修委員会から宮里唯子委員、木村芳樹委員、AG、AGEの皆様、国際奉仕・WCS委員会古澤照明委員長など多数の指導者のご参加を頂きました。司会は境 高彦地区代表幹事が務められました。

岡部泰鑑G

岡部泰鑑Gから次のようなお話がありました。

2013-14年度から財団のしくみが変わりますので、今年度はそれに向けて皆様にも勉強をして頂かなければならないと考えています。次年度にはもう補助金の計画、申請を行わなくてはなりません。ということで、今年度は皆様のご理解を深めて頂くためのセミナーを何度か実施したいと考えていますので皆様よろしくお願い致します。

福家 宏ロータリー財団委員長

ロータリー財団 (TRF) の成り立ち、RIとの関連、目覚ましい発展と奉仕の歴史、財団プログラムの種類と内容、国際ロータリーとロータリー財団とロータリアンとの関係などをお話し致しました。

1. 寄付増進プログラム+ポリオ・プラス部門

杉村雅之財団情報・増進委員長のお話は下記のような内容でした。

ポリオの新規発症状況は、全般的には大きく減少していることが認められるが、その数は調査の都度ある程度の増加が見られることもあり、この疾患の撲滅は容易ではないことを物語っていると思います。

ポリオ撲滅のための「ロータリー2億ドルのチャレンジ」への寄付は順調に進んでおり、現在までの寄付金合計は1億8,510万米ドルに達しています。もう少しですが、皆様のご協力をお願い致します。

2. 財団人道的補助金部門

川田 隆財団人道的補助金委員長は、「ロータリー財団と当地区の補助金」というタイトルで、人道的補助金の解説をされました。

マッチング・グラントと地区補助金の利用方法、特にマッチング・グラントについては今年度は東日本大震災の復興支援にも利用可能であることも含め、補助金の5,000ドルから25,000ドルまでと25,001ドルを超えた場合の競争性について説明されました。その他地区補助

金も含めて今年度の予算、補助金授与のシステム(金額)、報告義務などについての説明の後、東日本震災復興のための補助金の利用方法について説明されました。

3. 教育的プログラム部門

(1) 牧尾晴喜財団奨学金・学友委員長は、国際親善奨学生制度を解説される中で2012-13年度が現行制度での最後の年になることを話されました。そして過去の奨学生が現在どのような形で活動しているかを紹介され、ロータリー平和フェローについて、特に当地区輩出の寺西悦子さんをご紹介されました。また地区内クラブの皆様へ新たな平和フェローとなるべき方の推薦を要請されました。財団月間における卓話に関して協力を約束されました。

(2) 岸上億則研究グループ交換委員長は、ロータリー財団の教育的プログラムとしてのGSE(グループ・スタディー・エクステンジ)とは何かを説明されたあと、その目的と目標について話されました。そして他国に派遣されたチームの活動内容として①職業研修 ②文化研修 ③親睦の機会 について語られ、団長として参加するロータリアンの役割にも触れられました。そして最近の活動報告とともに、今期のスリランカとの交換について、来年度のハンブルクとの交換についてご紹介をされました。

(3) 大谷 透PGは、日本ロータリー平和センター支援委員会常任委員として次のようなお話をされました。ロータリー平和フェロー(応募資格)と、ロータリー平和センターの概略およびICU(国際基督教大学/東京)がセンターの一つに選ばれた経緯について。そしてICUの初代理事長であり、日本初のRI会長であられた東ヶ崎潔氏についてご紹介され、東ヶ崎ダイアログ・ハウスという冠名の施設の所以を語られました。これまで全世界の平和フェローの数は463名です。ICUは建学60周年を記念して世界平和を目指す対話の場所づくりとして「東ヶ崎潔記念ダイアログ・ハウス」の建設に乗り出しました。そこには研究者の寮や国際会議場が設けられており、ロータリー平和フェローシップの発展に寄与することが期待されていますが、ICUはこの施設の建設費の一部2億円の寄付を呼び掛けています。この施設が世界平和を願うロータリーの発展に寄与するものと考えられるところから、ガバナー会は規約第8条に基づき3年間限定で寄付への協力を決定しました。(ただし賛否両論あり)大震災後のことで寄付に異論もあるでしょうが、世界レベルの平和や紛争に関心にはならないで下さい。平和フェローシップの発展のためにご寄付をよろしくお願い致します。(1人2,000円以上)

《休憩時間》DVD「感染症ポリオ 残り1%の闘い」が上映されました

4. FVP(未来の夢計画)フューチャー・ビジョン・プラン

地区財団FVP委員長でもある私からFVPとはどのようなものか、このプランが浮上して2013-14年度実施に至る過程について概要を説明。その目的とするところ、3年間の試験期間、試験地区を紹介し、未来のロータリー財団のために設定された6つの重点項目を紹介しました。①平和と紛争予防/紛争解決 ②疾病予防と治療 ③水と衛生設備 ④母子の健康 ⑤基本的教育と識字率向上 ⑥経済と地域社会の発展 の6項目です。そして2つの新しい補助金モデル①新地区補助金 ②グローバル補助金とその事例について説明致しました。また新しい制度のもとでロータリー財団の資金を受領するには、地区はロータリー財団により、クラブは地区により「受領資格」を得るべきことにも触れました。そして今年度はFVPをスムーズに受け入れるための研修の機会を設けることをお伝えしました。

5. 東日本震災復興支援

(1)井上暎夫PGは、地区の災害支援プロジェクト委員長として次のようなお話をされました。

当地区には独自の「災害支援プロジェクト」という委員会の管理下で「2660地区災害復興基金」が活用され始めています。この基金は災害支援を希望するロータリアンの皆様の寄付(浄財)から成り立っています。東日本大震災の被害は極めて甚大で今後も継続した支援が必要で、そのためには皆様のご協力も継続的にお願い致します。この基金を災害支援のために活用するのはクラブです。クラブとして活用方法が分からないときは、当委員会にお尋ね下さい。この基金は支援するための資金がクラブ単独では賄いきれない場合に利用出来ます。またロータリー財団の補助金の規定に合わない支援内容についても、利用出来る場合があります。出来るだけ多くのクラブに利用頂くために、受領出来る地区基金には上限が設けられています。また地区基金を用いた支援の内容は全て地区内クラブにG月信などで広報しております。

(2)宮里唯子災害支援プロジェクト副委員長は「災害支援プロジェクトの資金調達」について次のようなお話をされました。(概略しておりますが、ご理解のためには当日の配布資料の方をご参照下さい)

今日ご出席の財団委員長の皆様は、災害支援の方法に関する情報を必ず社会奉仕委員長、国際奉仕(WCS)委員長にお伝え下さい。以下配布資料(早見表形式)に従い、下記のご説明をされました。

- i. 復興支援プロジェクトの資金源…①クラブ/個人の寄付 ②第2660地区基金 ③東日本震災復興基金(財団) ④財団人道的補助金(地区補助金、マッチング・グラント)
- ii. 上記の①②③④について…対象、受付期間、補助額、条件、提出書類、審査機関、所要期間、

申請回数、最終報告書、②③の基金への寄付についての解説

承認件数と金額、申請が却下された事例、申請件数、資金源の予算(残額は潤沢)などの解説

- iii. 社会奉仕活動を行う場合…被災地支援と被災地以外における補助金の種類と金額
- iv. 世界社会奉仕活動を行う場合…被災地には地区基金と東日本震災基金が利用出来る、海外には地区補助金やマッチング・グラントが利用出来る
- v. ②③と地区補助金の申請書式、報告書式の解説

■質問① マッチング・グラントを震災復興支援に用いる場合、当地区内クラブはホスト・パートナーとなり得るか?

(答) 可能だが、被災地のRC/地区がホストパートナーとなるのが望ましい。

■質問② 地区基金の利用はクラブ主体とのこと、地区は利用しないと言うことか?

(答) 必ずしもそうではない。クラブとして拠出はしたがプロジェクトが立ち上げられないケースや、プロジェクトの内容によっては地区が利用する。

6. 講評 RI理事近藤雅臣PG

今回のセミナーを通して「未来の夢計画」(訳語の良し悪しはともかく)は、補助金の利用が簡素化されると言うことであって、今日はある程度理解を深められたのではないかと思います。宮里副委員長には震災支援に関してとても分かり易いご説明を頂きました。お金を効果的に利用したいと考えるならば、先ず寄付しなければ始まりません。国難にあつて、ロータリアンは手を取り合って助け合わなければなりません。そのためにも「入りて学び、出でて奉仕せよ」ということを実践して頂きたいと思います。

7. 閉会挨拶 高島凱夫GE

本日は近藤RI理事のご臨席のもと、無事地区財団セミナーを終えることが出来ました。ロータリー財団はこれからFVPに向けて変化して行きます。クラブ財団委員会部門では、今後はFVPについての情報が次の年度に継承出来るよう人事について考えて下さい。もう来年の12月には申請書の提出の時期がやって来ます。

震災支援には様々な方法があります。支援プロジェクトをすでにスタートしているクラブもありますが、まだのところは是非始めて下さい。皆様今日はご苦勞様でした。